



竹田 英司

秋田大会初戦(20日)は昨季王者のジェイテクトを土俵際まで追い詰めたもののフルセットで惜敗。重い足取りで宿舎に戻り、夕食を食べようとした瞬間、地震に遭遇した。取り乱す私をよそに選手たちは平然と食事を続け、東北出身の熊倉允選手は「大丈夫ですよ」と励ましてくれた。当番で洗濯に行っていた武智洸史選手から「地震でタクシー



15勝目の記念撮影(21日)

● 難敵にようやく一矢

が来てくれません」と電話があり、ホテルの担当者に相談すると車を出してくださった。せっかくの夕食を食べ損ねて残念至極だったことは、選手には内緒だ。

翌21日、試合前の円陣で久原大輝選手が「この1年、苦しみ続けたキャプテンの誕生日の今日は勝利を贈ろう」とげきを飛ばした。前日と同様、2セット連取したものの第3セットを落とし、悪夢再来かと冷や汗を流した。第4セットはエドガー選手を中心に関心続け、私が入部以来2年間、勝てなかった相手によりやく一矢を報いた。会場で号泣するファンの姿を目の当たりにして、「勝利と感動をプレゼントできて秋田まで来てよかった」と感無量だった。

三十路を迎えた山本将平主将の勝利インタビューの後、中島健太選手が自身のスマホを私に向けた。画面には入院中の井上航選手の姿。私が思わず「航、元気か」と聞くと笑顔を見せた。病院の喫茶室にいて声を出せないらしい。航選手も一緒に記念撮影をしながら「良い息子たちに恵まれた」と感慨に浸った。

(JT広島マネジャー)